

学校だより2014



平成27年 2月 4日 (水)

第16号 浦安市立高洲中学校

〒279-0023 浦安市高洲7-3-1
TEL: 047-712-5533
http://www.city-urayasu.ed.jp/tksj/

校章のデザインについて: イチョウの葉を9番目の中学校として9枚つなげることにより、他校とも融合して若い世代がより発展していけるイメージとした。高洲の「T」の字を船に見立て、「洲」を表す「3本」の波を使って「志を高く掲げて」出航する様子をデザインした。イチョウは「浦安グリーン」、船は「浦安ブルー」、光は自分色に「輝くシルバー」を使用。

2月2日を浦安市立高洲中学校 創立記念日とします。

校章・校歌発表会

2月2日(月)14:00より、高洲中学校体育館において、浦安市長、教育長、校歌作曲者の渡辺香津美さん、歌詞編纂者の谷川公子さんをはじめとする多くのお客様を迎え、浦安市立高洲中学校 校章・校歌発表会を行いましたので、その様子を報告します。

校長あいさつ

本日、「浦安市立高洲中学校 校章・校歌発表会」を開催するに当たり、本校の設置者である浦安市長 松崎秀樹様、浦安市教育委員会教育長 黒田江美子様、校歌を作曲いただいた 渡辺香津美)様、歌詞を編纂いただいた 谷川公子様をはじめ、多数のご来賓の皆様のご臨席を賜り、また、多くの保護者の皆様のご列席をいただきまして、心より感謝申し上げます。ありがとうございます。

さて、生徒の皆さん、校章とは学校の教育方針や生徒、保護者、地域の方々の学校に寄せる思いなどを一つのシンボルとして表したものです。校歌とは学校行事の際に生徒や教職員によって歌われる歌で、その学校を讃える歌です。この後、松崎市長様から校旗をいただきますが、学校を象徴する校旗と校歌が出来上がったことをもって、高洲中学校の完成ということになります。そのような意味から、この2月2日を高洲中学校の創立記念日にしたいと思います。

この記念すべき日にあたり、皆さんに二つお話をします。

1つ目は、高洲中学校のこれまでの歩みを振り返ってみたいと思います。

東京湾を望むこの高洲地区は、第2期海面埋め立て事業により、昭和55年3月24日に誕生しました。「高洲」という地名は、埋め立て前の漁場(ぎょじょう)の名称を生かして付けられたものです。その後、高洲地区の宅地開発が進み、人口の増加に伴い小学校が設立されるとともに、新しい中学校をという市民の皆さんの熱い期待に応え、高洲中学校が建設されることとなりました。

本校は、昨年の4月7日に、市内9番目の中学校として、2年生87名、3年生26名で開校しました。校舎3階部分と校庭が工事中であったことを昨日のように思い出し、懐かしく思います。入学式では、1年生194名を迎え、11クラス307名、教職員40名で高洲中学校の歴史創りが始まりました。

私たちの歩む前には道がありませんので、何もかもが試行錯誤で、手探りの状態で進まなくてはなりません。しかし、歩んだ後ろには、歴史と伝統という道が創られていきます。今できているのは、まだ10ヶ月のわずかな道のりです。これからもみんなで力を合わせて、立派な道を創って行きたいと思えます。

2つ目は、校章・校歌についてです。

校章・校歌は、学級役員会の「校章・校歌制定プロジェクト」の5名の保護者の方が中心となり、生徒の皆さん、保護者の皆さんに協力していただき、手づくりで作ることができました。

この後、校章と校歌を作ってくださいました皆さんに、そのデザインや作曲あるいは歌詞への思いについて語っていただきますので、私からは感想を述べさせていただきます。

まず校章ですが、荒波にも負けず、確かな学びや友情、信頼に支えられて力強く船出していくその先には、自分色に光り輝く未来が待っているというメッセージを感じました。市内9番目の、夢と希望にあふれた新しい学校にふさわしいデザインだと感動しました。

次に校歌ですが、1番は高洲の情景や仲間との絆を、2番は志を高く掲げて自分色に光り輝く姿を、3番は未来に向かって歩む高洲中学校の姿を思い浮かべることができました。そして、耳を傾けて聞き入ってしまう素敵なメロディーに乗った歌詞の中で、「たかす タカス 陽はまたのぼる」という言葉が、私の胸を熱くしてくれます。

これから皆さんが歩む人生の中で、校歌を歌う機会があると思います。何かあったとき、特に悲しいとき、苦しいときに、つい「たかす タカス 陽はまたのぼる」と口ずさむのではないのでしょうか。この高洲中学校の校歌が、皆さんの人生の応援歌として、愛され、末永く歌い続けられることを願っています。

最後になりましたが、私をはじめ教職員一同は、校章や校歌に込められた学校への思いを真摯に受け止め、その実現に向けて精一杯努力してまいります。そして生徒、保護者や地域の皆様と手を携え、高洲中学校の歴史と伝統創りにまい進する所存でございますので、本日ご臨席、ご列席をいただきました皆様方の、変わらぬご支援、ご協力をお願い申し上げまして、挨拶とさせていただきます。

本日は、ありがとうございました。



校長あいさつに続き、校旗伝達が行われました。校旗は、教育長の手から市長へ、そして、生徒代表3年1組精松大智さんに伝達されました。

伝達された校旗は、深いみどり色の地に金と銀の糸の刺繍で校章がデザインされ、学校名が入ったものです。



次に、校章作章者と校歌作曲者の紹介があり、それぞれの方にお話しいただきました。

はじめに、校章作章者 2年1組 古室早理さんが、校章のデザインについて、「校章のデザインに込めた意味は、まず、市のシンボルツリーである銀杏を使いたいと思いました。市内6校の校章に銀杏が使われ、浦安市最後の開校となる高洲中だからこそ他校ともみんなにつながっていきたいという思いを込めました。デザインしたのは6月でしたが、夏休みに高洲中学校の代表として、浦安市立志塾に参加し、松崎市長と東北の被災地を訪問した時、つながりの大切さを心に刻むことになりました。被災者の方々が「自分たちを助けてくれたのも、今も支えてくれているのも、何よりも人とのつながりだと教えていただきました。」



校章の中央には、Tの字を使い、自分を表す船に見立てました。人とのつながりを表す輪の中で、一番大切にしてほしいのは自分自身です。私たちは、みんなが特別で、みんなが大切な存在です。よく人の気持ちを大事にしようといひます。人への思いやりは優しい想像力です。その想像力を今度は自分に向けてみます。本当は何をしたいのか、何をするとわくわくするか、大切なのは、今の自分の思いです。一人ひとりが自分自身が大切であると知った時、人もまたそれぞれに思いを持って大切にしていることがわかります。自分も人も大切に思うことで、信頼し合えるきずなが生まれると思います。

中央の自分を表す船は、取り巻く波が変化しても、むしろ波に乗って、自分らしく意気揚々と帆をあげて、輝いていたいという願いを込めました。」と語ってくれました。

続いて、校歌作曲者 渡辺香津美さんと歌詞をまとめてくださった谷川公子さんがお話しくださいました。渡辺さんは、「この新浦安に都内から移ってきた12年前に最初に感じたことは、空の広さでした。ずっと眺めていて、故郷になるように感じました。私は、今までたくさんの曲を作ってきたが、校歌を作ったのは初めてです。同窓会で仲間と会うと、60歳になった今でも肩を組んで校歌を歌います。それくらい自分の学校の校歌は、思い出深い、きずなをつなげていくものだと感じます。

高洲中の校歌を作るにあたって、イメージしたのは、空の広さ、青さ、そして、自然と街が一体化している、自然と人が共存していることです。校歌を作るにあたって、空と海が基本となりました。みなさんが寄せてくださった歌詞を読みながら、ギター弾いて歌いながら作りしました。そして、この「出航(たびだち)」が完成しました。この曲を育ててくれるのはみなさんです。私の手を離れ、みなさんのものです。大人になっても思い出して歌ってほしいと思います。今日、みなさんが歌ってくれるのを楽しみにしています。」とお話しくださいました。



谷川さんは、まとめてくださった歌詞について、「みなさんが寄せられた言葉には思いが込められていると感じ、すべての人の思いが入った歌詞をどうしようと思い、大役だと感じた。そんな時、2011年の震災後、岩手県釜石市の小学生が毎朝歌っていた校歌が素晴らしく、歌詞には、「生きるための知恵」が詰まっていて、困難に出会ったときに、毎日それを歌って、知恵と勇気、生きる希望が湧いてきたのだろうと感じたことを思い出しました。

そこで、みなさんの心に添い、何かの時に口をついて出てきて、心にヒットするような歌詞にしたかったのです。校章のデザインを見たとき、すべての世界が見えてきました。富士山のように美しく、誰

の心にも添うようにしたいと思いました。1番で、みんなで心をつかち合って絆をはぐくもう、2番で、校風である「自分色」ということを突き詰めて、自分の将来を自分で作るという願い、3番は、自分を取り巻く環境と世界の中で、未来を強く生きる願いを表現しています。」と話してくださいました。

3人には、生徒代表より花束を贈呈しました。

いよいよ、校歌の発表、指揮は、3年1組 永原 萌さん、伴奏は、歌詞編纂者 谷川公子さんです。

3学期が始まって以来、音楽の時間や帰りの会で練習を重ねてきた校歌を生徒と職員全員で晴れやかな思いで合唱しました。

校歌発表に続き、渡辺さんと谷川さんに記念演奏をしていただきました。初めに、渡辺さんがアコースティックギターでジャズを、谷川さんのピアノが加わって2曲、そして最後に、渡辺さんのエレクトリックギターと谷川さんのピアノによる高洲中学校校歌「出航」の演奏でした。合唱と違う雰囲気の素晴らしい演奏でした。



来賓を代表して、浦安市長 松崎秀樹さんから、「高洲中学校の校章・校歌を心のよりどころとして、みなさんが第一歩を踏み出す日が今日だと思います。これから長く伝統と歴史を創っていく最初の1ページを作るのがみなさんです。胸を張って、校章を掲げ、校歌を歌い。浦安市立高洲中学校の伝統を作っていたください。」と祝辞をいただきました。



発表会の終わりに、生徒を代表して、3年1組松竹谷海斗さんが、次のように、あいさつをしました。

「今日の日を心待ちにしていました。校歌を合唱し、感激しています。私は校章について、9枚の銀杏の葉が気に入っています。また、中心のTの文字で船と波をかたどったところに未来への希望を感じます。校歌は温かな優しいメロディで、のびのびと歌うことができます。歌詞では、志の意味を持つアンビシャスの部分が一番好きです。校章も校歌も未来に向かって挑戦しようということを表しています。何より校章も校歌も私たち生徒が考えを出し合って作ったということが大きな誇りです。

私たちは、この校章と校歌に込められたみんなの思いを忘れずに、長く引き継いでいきます。そして、一人一人が高洲中生としての自覚を持ち、互いに学びあい、励ましあって、「楽しく 輝く 素敵な学校」高洲中学校を作るよう、今日から心新たに努力します。」

こうして、晴れやかに発表会を終えることができました。